

ツイッターやフェイスブックを通じた情報収集 — インドの英字新聞を中心に —

坂井 華奈子

チュニアアで起きた革命に
ツイッター (Twitter: <http://twitter.com>) やフェイスブック (Facebook: <http://www.facebook.com>) が大きな影響を及ぼしたことは記憶に新しい。
ツイッターとは、ツイート (つぶやき) と呼ばれる一四〇文字の情報を発信し、また「フォロー」することで情報を受信し、コミュニケーションできるソーシャル・ネットワークキング・サービス (以下 SNS) と呼ばれるもののひとつである。日本語版サイトに「Twitter は、世の中の『今』を知る最高の方法です」と書かれているように、世界中の利用者と瞬時に情報交換ができる。一四〇文字という限られたテキスト情報とあなどるなけれ、リンクを埋め込むことで詳細情報を掲載したウェブ上のページや動画サイトへのリンク、写真を添付することもできる。一方で、フェイスブックは実名で登録するなど、ツイッターに比べて利用者同士の関係性の持つ意味がより濃いものになっている。また、個人でなく企業・団体

等の運営するページは「ファンページ」と呼ばれ、そのページにアクセスしてタイトルの横に表示される「いいね!」というボタンをクリックすると、自分のページに投稿が流れてくるようになってくる。
このような SNS はパソコンだけでなく携帯電話からも利用可能であり、素早く手軽に情報を受発信することができるとなった一方で、東日本大震災の際にツイッター等を通じて急速にデマが広まってしまったなど、真偽を見極めるのが難しいという問題も指摘されている。ソーシャルメディアに限ったことではないが、情報を鵜呑みにする前に発信源の信頼性やソースを確認することは重要である。
ツイッターやフェイスブックでは一般の個人だけでなく、著名人や企業、マスメディア等が公式に運営しているアカウントも多い。そうしたチャネルを通じて、信頼できる情報を収集することができ、またその情報にコメントなどを追加して再発信し、フォローとコミュニケーション

シオンすることも可能である。ここでは、インドの英字新聞についてアジア経済研究所図書館で所蔵しているものを中心に表として紹介する。記事の更新情報を RSS で配信している場合も多いため、併せて掲載した。RSS リーダーを利用すると、逐一各サイトへアクセスして更新の有無を確認せずとも登録した更新情報を一括して確認することができて便利である。

そのほかに、信頼性の高い情報源の一例として、経済産業省では「公共機関ソーシャルメディアポータル」を作成し、ツイッターアカウントの運用を行っている公共機関一覧をまとめている (<http://smp.openlab.go.jp>)。インド政府がフェイスブックに二〇一二年から二〇一七年の第二期五カ年計画に関する公式ページ (<http://www.facebook.com/2012plan>) を作成し、市民からの意見を募集するという試みを実施しているのも興味深い。また、二〇一一年のインド国勢調査についてはツイッター (<http://twitter.com/#/indiacensus2011>) とフェイスブック (<http://www.facebook.com/Census2011>) の両方で情報を発信している。

情報の受け手になるだけでなく、自ら発信することで共通の関心を持つ人々との新たなつながりが生まれることも SNS の特徴である。関心のあるキーワードで検索してそうした利用者を探すのもよいし、ツイッターの場合にはひとつ関心のあるアカウントをみつけると、その画面からそれをフォローしている利用者の一覧をみることもできるため、芋づる式に探すこともできる。また「リスト」という機能を利用すると自分の関心テーマごとにアカウントを分類し、一覧することが可能である。他の利用者が作成し公開しているリストをフォローすることもできるため、関心領域が重なる利用者のリストをみるのも一興である。

アジア経済研究所でもウェブサイトの更新情報を一部 RSS で配信しており、ツイッター (<http://twitter.com/#/idejeto>) と連携させている。自動配信のため「ご意見に対する個別回答等は控えさせていただきます。」としているが、最新情報をキャッチするためには有用だろう。ぜひご利用いただきたい。
(さかい) かなこ/アジア経済研究所図書館

Title	Twitter (*1)	Facebook (*2)	RSS	備考
The Economic Times	economictimes	EconomicTimes	http://economictimes.indiatimes.com/rss.cms	1961年創刊。Times of Indiaと同じ発行元。インド最大の経済・金融関係専門紙。Twitterではヒンディー語版、グジャラーティー語版、27のセクション別アカウントもあり。RSSもニュースページの種別ごとに用意されている。
The Hindu	the_hinduおよびthehindu	TheHindu	http://www.hindu.com/thehindu/rss/index.htm	1878年創刊。1995年、インドの新聞で初めてオンライン版を開始。Facebook、Twitterともに新聞社ウェブサイトからのリンクがみつけれず、公式かどうか不明。各記事のページからTwitterやFacebookなどへの投稿ボタンあり。
Hindustan Times	httwweets	hindustantimes	http://www.hindustan-times.com/RSSFeed/RSSSubSectionPage.aspx	1924年創刊。姉妹紙としてヒンディー語のHindustanやビジネス誌Mint等があり、同様に更新情報を配信している。
The Times of India	timesofindia	TimesofIndia	http://timesofindia.indiatimes.com/rss.cms	1838年創刊。イギリス資本によりBombay Times and Journal of Commerceとして創刊され、1861年、他3紙と合併してTimes of Indiaとなる。

(注) *1 ブラウザのアドレス欄に<http://twitter.com/>に続けてアカウント名を入力 (出所) 各サイトより筆者作成。備考はアジア経済研究所図書館の南アジア新聞紹介 (http://www.ide.go.jp/Japanese/Library/Region/South_asia/south_asia_news_papers.html) も参考にしている。
*2 ブラウザのアドレス欄に<http://www.facebook.com/>に続けてアカウント名を入力